

テーマ	通級指導と連携した「理解」「習得」につなげる国語科の授業づくり —「ビーバーの大工事」(2年)と 「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」(5年)を例に—
発表者 (所属)	住江 真智子(大阪市立塩草立葉小学校)
【発表概要】 通級指導教室を利用する児童が通常学級での授業で学習のねらいを達成するためには、どのような点に配慮し、授業を工夫するとよいのでしょうか。 本発表では、学びや行動に課題のある児童を想定して、授業UDの考え方を土台に、その児童だけでなく学級全員が「理解」「習得」につなげる授業になるための配慮や工夫について、授業プレゼンテーションの形で提案します。 また、学びを確かなものにするために、通級指導の時間ではどのようなねらいでどのような指導ができるかについても合わせて提案します。 <授業プレゼンテーション> ① 授業中落ち着いて過ごすことが難しい児童、文字の習得が十分でない児童を想定した「ビーバーの大工事」の授業(東書2年) ② 書くことに苦手意識のある児童、文章の意味を読み取ることが難しい児童を想定した「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」の授業(東書5年)	